



日常的な除雪に対する 高齢者世帯の支援は

橋本 洋一（久比岐野）



Q 人口減少と高齢化が急速に進む中であって、高齢者にとっては毎朝、毎晩の日常的な除雪が大きな負担になっている。除雪に対する高齢者世帯の支援の考え方について聞きたい。

A 除雪作業は高齢者にとって身体的負担が大きく、体調を崩す要因や転倒によるケガのリスクも高まることから、自助を基本としつつも共助・公助を組み合わせる負担の軽減を図る必要があると考えている。市では、現在、自力での除雪が困難な世帯を対象に屋根や玄関前の除雪費用を助成する制度を実施しており、民生委員・児童委員の協力を得て申請の支援を行っているのをはじめ、降雪時には見守りや声掛けを行い、除雪についても近所の方から作業をしてもらうなど地域の支え合いの中で除雪に対する高齢者の支援に取り組んでいる。また、道路除雪を実施する業者に対しては、要援護世帯の敷地に接する道路の除雪に際して雪の取り残しがないよう特段の配慮をお願いしている。市としては高齢者世帯の日常的な除雪作業について、自助・共助・公助が互いに連携・補完し合い、バランスよく機能することが大切であると考えており、いざという時の助け合いが円滑に進むよう共助に関する支援の取組を進めていく。



津波避難タワーを 整備できないか

江口 修一（久比岐野）



Q 直江津地区に小型で簡易的な津波避難タワーを整備する考えはないか。

A 上越沖にあるF41断層の活動周期は低頻度であり、津波避難タワーの早急な整備による効果は非常に限定的なため難しい。



（千葉県匝瑺市）

デジタル技術を活用し業務の効率化を！

Q 市職員業務のDX化に対する考えはどうか。

A デジタル技術を活用した業務の効率化と職員の「Tリテラシー」の向上など、職員の負担軽減と業務遂行能力の強化を前提としながら、市民の利便性にも配慮しつつ、システム導入の費用対効果を十分精査した上で、市業務のDX化に取り組む必要がある。

行政のDX化推進

5年後自治体
職員の減少

業務量は変わらない
人だけが減る

経験と勘からでなく、
データに基づき政策形成

生成AIが政策形成を劇的に変える

情報収集の圧倒的
な高速化

多様な視点からの
対策提示（福祉・災害）

DX人材の育成

強い者・賢い者が生き残るのではなく、変化に対応できた者が唯一生き残る



教室に国旗を掲示して 誇り喜び感謝を育む

渡邊 希（参政党）



Q 自分が生まれた国やまちに誇りを持つことは、自己肯定感の土台を形成する。世界一長い歴史を持つ我が国日本に生まれたこと、そして美しい故郷上越に住んでいることを誇りに思い、喜びを感じ、またこれまで日本や上越を護ってきた先人へ感謝の気持ちを持つ子供たちを育みたい。子供たちに国や市、学校の一員という所属感を与え自己肯定感を高めるために、小中学校の教室内に国旗等を掲示する考えはないか。

A 入学式などの節目の行事で国旗等を掲揚しているが、教室では授業に集中しやすいように学習に直接必要なものを中心に掲示している。

校長判断で部活動を学校に残せるか？

Q 部活動の地域展開が進められているが、地域によっては放課後に参加できる活動が限られ、また送迎等を要する場合も多い。教育の目的は人格の完成と心身の成長であり、部活動は学校教育活動の一部として実施されてこそ、その教育的意義が保たれる。部活動の設置と運営の最終的な責任者は校長であるが、子供たちに放課後の居場所を保証し、人生の糧となる経験を担保するため、平日の部活動を学校に残す判断を校長がする場合、その判断は尊重されるのか。

A 学校ごとの具体の対応については、最終的には校長の裁量に基づく判断となる。